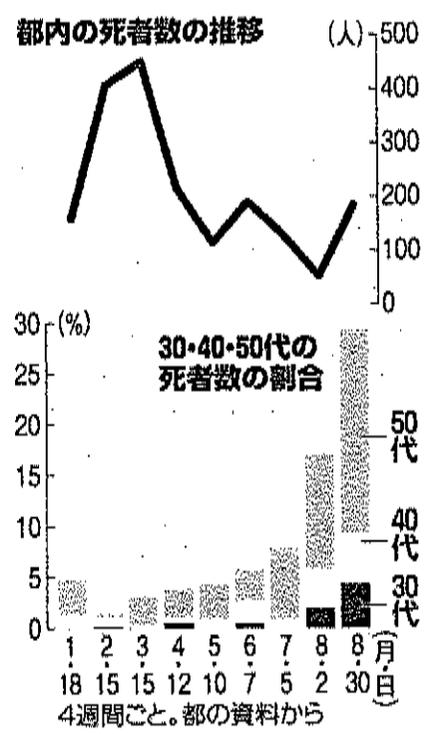


# 第5波 都内の死者 50代が2割

## 4週間集計 30〜40代も増加

新型コロナウイルスの第5波が本格化して以降、東京都内で亡くなる患者が増加している。8月30日までの直近4週間で発表された死者数は185人で、前の4週間と比べて132人増えた。50代が全体の2割に上るなど30〜50代の占める割合が急増しており、死者が若年化する傾向が続いている。



都が毎週月曜日に発表している年代別の死者数をもとに、4週間ごとの死者数を集計した。

都内では7月下旬から感染が急拡大。死者は遅れて増える傾向にあり、8月に入って増加している。8月2日までの4週間の死者は53人だったのに対し、同30日までの4週間では185人に急増。年明け以降で最多となった第3波の452人(3月15日までの4週間)は大きく下回るが、第4波の6月7日までの4週間の191人と同水準となった。

年代別でみると、これまでの波と比べて、第5波では死者数が若年化する傾向

が強まっている。3月15日までの4週間では30代は0%

、40代0・2%、50代2・9%だったのに対し、8月2日までの4週間は30代1・9%、40代3・8%、50代11・3%に上昇。8月30日までの4週間ではさらに上がり、30代4・3%、40代4・9%、50代20・0%となった。

コロナ患者は高齢者以外の年代でも、糖尿病や高血圧といった基礎疾患がある人と重症化しやすいとされる。かつてない感染爆発が起きた都内では自宅療養中の50代以下の患者の体調が急変して死亡するケースも続出。8月に入って自宅療養中に亡くなった人は26人

に上る。

8月6日に死亡した基礎疾患のない40代女性は5日に陽性が判明した際、発熱とせきの症状がみられたが、発熱は37度台にとどまり、家族と暮らす自宅での療養を始めたが、翌6日夜に体調不良を訴えて救急搬送されたという。

ワクチンの2回接種を済ませた患者の死亡例も出始めている。都によると、死者の大半は接種していない人が占めるが、集計を始めた7月19日以降、2回接種済みの死者は計14人に上る。8月31日には、2回接種済みの60代男性と、90代女性の死亡が発表された。

(関口佳代子、岡戸佑樹)